

テーマ：

私たちは「働き方改革」「ワークライフバランス」をどのように捉えるべきか？

松本 晃秀氏 （リープクリエーション合同会社代表）

◆ご略歴

2004 年和歌山大学経済学部を卒業後、リクルートグループに入社。

企業の人材採用に関するメディアの企画提案営業に携わる。

2009 年大手広告代理店へ転職しメディア、エージェント業を学んだ後に独立。

現在は、「東証 1 部上場企業から中小零細企業までの 500 社」と「就職・転職・独立したい個人 1000 人」に会い、その経験をもとに「成長」「キャリア」「雇用」「独立」などをテーマとした個人発行として日本有数のオンラインメディア「21 世紀独立論」を企画・運営。また、法人・個人のコンサルティングのほか、執筆活動等も行う。

◆内容の概要

今回は、「働き方改革」や「ワークライフバランス」、そして「就職」「転職」「働く意味」「キャリア形成」「ワークスタイル」に対する 企業や個人の価値観（認識）を変えることの重要性について 500 社を超える企業と 1000 人を超える個人に直に触れてきた経験から見えてきたこと、感じてきたことをもとに、ざっくばらんにお話します。

2016 年 9 月、総理官邸で第 1 回「働き方改革実現会議」が開催されましたが、今、日本社会では、一人でも多くの人々が活躍し成果を挙げられるように企業・個人ともに「変化すること」が求められています。

それでは、具体的に何を変化させることが根本的に重要なのかというと「価値観」です。

価値観とは、何にどのような価値を認めるかという判断で、「物事の優先順位」とも言えますが、この価値観を変えていくことや価値観の多様化を認めていくことが「働き方改革」の推進や「ワークライフバランス」の実現、そして、各々の望むキャリア形成にとって、とても重要なポイントになります。

また、一口に「働き方改革」や「ワークライフバランス」と言っても、そのイメージや、それに何を求めるのかは、企業や個人によって様々。つまり、コンパクトに表現してしまえば、企業は自社の課題や推進したい事業（活動）をもとにそれらを捉え、判断・選択・行動することになり、個人も同様に、自身の希望（キャリアや生活など）をもとにそれらを捉え、判断・選択・行動することになります。すなわち、この双方の事情や考えを踏まえて、どのような結論に着地させていくのかが極めて重要であり、まずは、一人ひとりが客観的な視点で社会を捉え、考えていくことが重要ではないでしょうか。

業種・職種、各企業によって状況は様々ですが、これまでの事例をご紹介します。話題提供したいと思います。